



発行 菊水地区まちづくり
ネットワーク会議
会長 真鍋 義雄
菊水まちづくりセンター 内
(菊水7条2丁目2-20)
電話 811-9445 FAX 811-3831

(第4号)

「菊水まちづくりセンター」の紹介

今回は、町内会活動や各団体活動、そして色々なイベント事業に対して、ご指導ご支援を頂いている「菊水まちづくりセンター」の所長とスタッフの皆さんをご紹介します。平成16年4月、事務所の名称が「菊水連絡所」から「菊水まちづくりセンター」に変わりました。そして菊水地区におきましても、昨年3月に「菊水地区まちづくりネットワーク会議」が結成され、いよいよ住民による住み良いまちづくり活動がスタートした訳です。結成後2年目に入ったばかりで、活動はこれからと言った所ですが、「菊水まちづくりセンター」も町内会など住民組織の振興、地区福祉活動の支援、住民票、戸籍証明、印鑑証明などの各種証明書の取次ぎ業務などの従来の業務に加え、地域の問題解決に向けた各団体のネットワーク化支援、地区のまちづくりに関する施策などの企画及び推進に係わる調整、地域情報の共有、市政情報の提供、地域の皆さんが簡単な打ち

合わせに利用出来る情報スペースや無料で利用出来るパソコンコーナー（インターネット回線、プリンター接続）なども設けております。今後も地域の皆さんに親しまれ、頼りにされるスタッフを目指し頑張りますので、宜しくお願い致します……との所長のコメントを頂きました。地域の皆さん宜しくお願いいたします。



(左から中農さん、中田所長、松下さん)

平成20年度 白石区事業概要説明会開催される

6月12日(木)札幌70-7において平成20年度の白石区の事業概要説明会が開催されました。宮川白石区長の挨拶に続き、市民部、税務部、土木部、保健福祉部、保健担当部、白石消防署の各部長から、平成20年度の執行事業の概要について説明がありました。出席者は各連合町内会会長及び副会長、白石区ふるさと会、白石老人クラブ等の各団体代表者の他、まちづくりセンター所長、合計174名が参加。説明会終了後は、白石区町内連合会連絡協議会(区町連)主催の地域活動懇談会に入り、真鍋区町連会長の挨拶、加藤札幌市副市長の来賓祝辞、宮川白石区長の祝杯の後懇談会に入り、親睦と情報交換が活発に行われました。



「菊水地区まちづくりネットワーク会議」活動報告

平成20年度 定期総会

5月30日(金)菊水地区会館において「菊水地区まちづくりネットワーク会議」の定期総会が開催されました。総会には40名の役員、委員の皆さんが出席し、活発な議論が交わされました。冒頭、真鍋会長から、「去年はコミュニケーション不足から、一部で活動が停滞している所があった。今年は役員会で検討を行ってきており、是非活動を軌道に乗せて行きたい」との挨拶がありました。続いて、平成19年度事業・決算報告があり、平成20年度の事業計画・予算案について審議が行われました。

委員の方々から質疑応答や意見提案などが多数あり議論を尽した結果、原案通り承認されました。



★ 平成20年度事業計画

総務・企画部＝会議の総務企画に関すること

- ★ ネットワーク会議の運営。
- ★ 各事業部へのサポート。
- ★ 菊水まちづくりネットワーク会議広報紙の発行。

安全・安心部＝地域の安全安心の実践に関すること

- ★ 連合町内会ごとに、夜間の防犯・防火パトロールを実施。(月1回以上)
- ★ 青色回転灯装着車による小学児童の下校時見守り活動を実施。(週1回以上)
- ★ 買い物などの外出時、自転車の買い物かごに「防犯パトロール」の表示(腕章)を装着し、防犯活動を実施。

福祉部＝地域の福祉充実に関すること

- ★ 「お年寄りと子どもの交流会」の開催。(福まち、老人クラブ、子ども会と連携、1月開催)
- ★ 「菊水地区雪中運動会」の開催。(青少年育成委員、福まち、学校、PTA、子ども会と連携、2月開催)

環境・文化部＝地域の環境美化・文化活動に関すること

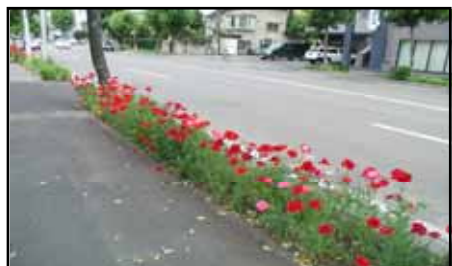
- ★ 地域の環境美化の推進。(春=4/13～5/18 夏=7/5～8/1 秋=9/28～10/26 一斉清掃デーを設定)
- ★ 写真コンテストの実施。(「菊水の隠れた魅力を発見」をテーマに写真コンテストを実施)

情報部＝地域団体への情報活用に関すること

- ★ パソコン教室の開催。(初心者向け基礎講座、受講修了者による自主的勉強会開催)
- ★ インターネット・携帯電話利用に伴う危険と予防についての講演会開催。
- ★ 地域ホームページの作成。(ネットワーク会議情報部と福まち広報部で内容・構成を検討)
- ★ 北海道情報専門学校の見学会。(北海道情報専門学校の施設訪問と同校の協力を要請)

札幌おもてなしクリーンUP運動

6月25日～29日菊水地区各地で一斉清掃が実施されました。これは7月7日から7月9日まで北海道洞爺湖サミットが開催されますが、これを機に、世界に向けて「環境都市・札幌」を宣言するほか、「サミット記念環境総合展」や「こども環境サミット札幌」等々各種関連事業に訪れる海外のお客様に対して、おもてなしの心を込めて「美しくきれいな街でお迎え」しようとするものです。各連町や団体ごとに、軍手にごみ袋・火ばさみを持って参加。ごみ収集と花壇の清掃、のぎく公園、やよい公園の草刈や清掃作業に少年野球チーム(菊水ベアーズと父母)も参加し、美しい公園になっていました。おもてなしの気持ちと同時に、美しいまち並みづくりに、1人でも多くの市民の参加をお願いしたいと思います。



第58回「社会を明るくする運動」 白石区民大会

7月1日(火)第58回「社会を明るくする運動」白石区民大会が白石区民センターで開催されました。この大会は犯罪・非行を防止し、罪を犯した人の更正について理解を深め、力を合わせて犯罪や非行のない明るい社会を築こうと、法務省の主唱で毎年7月を強調月間として、全国的に展開されて居ます。今年度は、更正保護に関する映画「ボクの居場所」の上映後白石区保護司会副会長をコーディネーターに、菊水地区青少年育成委員、白石区民生児童委員協議会の委員、白石区保護司会理事、白石区PTA連合会副会長の4人のパネリストにより討議されました。「ボクの居場所」の上映内容は、協力事業主(保護観察を受けている人など、前歴にこだわることなく、積極的に雇用する事で、自立更正を援助する民間事業主)が、彼らの心情を理解

し、温かい励ましと援助により、次第に生活力も身に付け、立ち直って行くと言う・・・ストーリーですが、菊水地区青少年育成委員のパネリストから、雇用主の奥さんの親身になった対応や我が子の様に大切にする姿勢に感銘を受けた。罪を犯した人の更正には、周りの人達の理解・温かい励ましが必要との意見が出されました。



第33回 白石区ふるさとまつり開催

7月19日(土)の前夜祭、20日(日)の本祭りと両日に亘り、白石区役所の大駐車場を活用し、「白石区ふるさとまつり」が開催されました。会場は大きく分けて、大駐車場に「ふるさとまつり」会場、奥側駐車場に「フリーマーケット」会場、庁舎側の駐車場には、同時開催となった「子ども遊芽カーニバル」会場と、区役所の駐車場を活用した祭りは今年で2回目と成りましたが、随所に改良が加えられ、売店のテントも統一され見栄えが良く、メインステージはレンタルを活用。レイアウトもステージを会場の奥側にし、入り口から全体を見渡せる様になっていました。又、昨年は庁舎内だった「子ども遊芽カーニバル」会場も今年は屋外に設置したため、参加しやすいレイアウトに改良されました。前夜祭は、盆踊り大会・仮装大会、お笑い・歌謡本祭りには、恒例の白石音頭で幕開け、開会式には宮城県白石市の風間市長、札幌市の加藤副市長も来賓でご挨拶されました。その後、札幌本陣太鼓、スクールバンド演奏、演芸大会、カラオケ大会、・・「子ども遊芽カーニバル」会場

では、よさこい、ビンゴゲーム等々もり沢山。尚、今年は菊水東連合町内会の井東会長がふるさとまつり実行委員会事務局長として活躍されました。



「菊水地区まちづくりネットワーク会議」ってなんですか？

札幌市では、昨年4月に「自治基本条例」が施行されました。これは市民が主役になって「まちづくり」を進めるためのルールです。市民、議会、行政のそれぞれの役割や、仕組みが規定されています。「だれかがするだろう」「それは行政の仕事だ」と無関心でいるのではなく、ひとりでも多くの市民が参加し「自分達の地域は自ら考え、皆と一緒によりよくしていく」そして「行政と連携・協働しながら地域づくりをして行く」これが「住民自治」であり「菊水地区まちづくりネットワーク会議」です。地域のことは、地域に住む人が一番よく知っています。困っていることがあれば、まず自分達でやってみる、必要なら行政と協力して問題を解決して行く、これが「住民自治」です。



世界では今年だけでも中国四川省の大地震やミャンマーのサイクロンで15万人以上の命が奪われました。誰もが自分の住むまちが、快適で住みやすく災害のない安全なまちであって欲しいと願っています。しかし現実にはしばしば私達の身近で災害が発生します。科学の発達した現代においても十分に克服されているとはいえません。実際の災害にまず対応していくのは、被害を受ける市民であり、身近な存在の町内会組織です。その機敏で適切な行動が、弱者をかばう心が、被害をより少ないものにしていく事は、過去の感動的な事例から明らかです。又、災害時の強い味方は地域の自治体の行政者です。地域の実情と歴史を熟知している行政の活動は大きな安心と支援を被災者や市民に与えます。それぞれの役割やシステムが災害時に素早く有効に起動するためには、ふだんの準備と周到な用意が欠かせないのではないのでしょうか。 編集子